

〔優秀賞〕

◇ 男女平等思いやり ◇

赤見小学校 5年 藤間 涼太

ぼくは「男女共同参画」という言葉を聞いたことがありませんでした。共同は、何となく一緒に何かをすることかなと思いました。よく分からなかったので調べてみると、「男女がおたがいを尊重し合い、社会のあらゆる分野で、その個性と能力を發揮できる社会のこと」だということが分かりました。意味が分かったら興味がわいてきたので、ぼくも自分の身の回りの男女共同参画について考えてみることにしました。

まず、一番身近である家庭かんきょうについて見直してみました。昔は、男の人は会社など外で仕事をする人が多く、女の人は家の仕事をする人が多かったといいます。男の人が料理や洗たく、そうじなどの家事や育児をすると、はずかしいと思われてしまうこともあったようです。だから女の人は働きに行かなかったようです。ぼくは、女の人はなりたいた職業はなかったのかなと、不思議に思いました。男の人だけやりたい仕事をして、不公平な感じもしました。ぼくのお父さんとお母さんは二人とも家の外で働いています。お父さんは朝早くから仕事へ行き、お母さんはぼくたちの朝ご飯を作ったり、洗たくをしたりしてから仕事へ行っています。夕方は仕事から帰ってくると休む間もなく、夜ご飯を作ってくれます。お父さんは、仕事がない日は料理やそうじなどの家の仕事を何でもやっています。でも、お母さんにしかできないこともあるので、「お母さんがいないと、困るなあ。」と、言うこともあります。反対に力仕事

などお父さんがいないと、お母さんだけでは困ることもあります。「お父さんは力があるから助かるね。」と、言っていました。

男の人も女の人も人間なので、得意なことがあるれば、苦手なこともあると思います。料理が苦手なお母さんもいるし、得意なお父さんもいると思います。いろいろな人がいるから、いろいろな家庭があって、だからこそ男女関係なく思いやり、おたがいに協力して助け合っていく社会にすることが大切だと思いました。

ぼくのクラスを見てみると、男女関係なく係や給食当番の仕事をしています。男子も家庭科の授業があるので、料理の仕方やさいほうをします。さいほうは少し苦手だけれど、そんなときはすぐに友達が教えてくれます。もちろん、男子の友達も女子の友達もどちらも声をかけてくれます。たまに、重い物を運ぶときは男子が活やくすることもあります。これは、男子と女子は体のちがいがいるからそれを生かすことだだと思います。

全てのことを全員がやるのではなく、男の人、女の人、体の作りも考えて、おたがいに協力をして過ごしたり、自分がやりたい仕事をやったりする社会になったらいいなと思います。家の仕事は生きていくことにとっても必要だから、みんなで協力していきたいです。